

動物実験に関する検証結果報告書

日本大学文理学部

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2020年3月

日本大学文理学部
学部長 紅野 謙介 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 浦野 徹



対象機関：日本大学文理学部
申請年月日：2019年6月5日
訪問調査年月日：2019年11月28日
調査員：八神健一（筑波大学）

検証の総評

日本大学は国内有数の規模を有する総合大学であり、多くの学部で動物実験が実施されている。全学における動物実験等に対応した「日本大学動物実験運営内規（以下「運営内規」という。）」が定められ、学長が動物実験等の実施に関する最終責任を有することを明記したうえで一部の事項を学部長等に委任し、全学の動物実験委員会に加えて、学部の動物実験委員会を設置することとしている。規程類、実施体制は文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」および環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則したものである。多数の学部、複数キャンパスを有する大規模な大学として、部局ごとの対応と全学的な統一性が良好に機能しており、高く評価できる。

文理学部では、文理学部動物実験委員会が動物実験計画の審査、施設の定期的な視察、教育訓練、自己点検・評価等を適正に実施している。現在の飼養保管施設は、過去の自己点検・評価を受けて平成29年に設置されたものであり、良好に維持管理されている。文理学部においては、げっ歯類を対象として少数の動物実験が実施されているだけであるが、現状において大きな改善点は見当たらない。引き続き良好な状態を維持しつつ、常に最新の情報を取り入れて動物実験の適正な実施に心掛けられたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
日本大学の全学部を対象とする「運営内規」が定められ、「日本大学動物実験運営内規解説」でわかりやすく解説している。さらに文理学部では、「運営内規」を受けて「日本大学文理学部動物実験に関する要項」が定められている。これらの規則は、基本指針および飼養保管基準に適合する内容である。よって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見
特になし。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検・評価の妥当性
「運営内規」にしたがって全学の動物実験委員会（外部委員を含む19名の委員）および文理学部動物実験委員会（7名の委員）が設置され、両委員会ともに基本指針に定められた3種のカテゴリーの委員が含まれている。よって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。

<input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験の実施手続きに関する各種様式が定められ、それらには審査に必要な事項が網羅されている。また、動物実験計画の立案に有効な記入例が準備され、「日本大学実験計画等申請管理システム（NU-PRIS）」を用いた手続きの電子化も進め、効率的で的確な実施体制が構築されている。さらに、「動物実験責任者が所属する学部等以外で実施する動物実験計画申請の取扱い」が定められ、大規模で複数キャンパスを有する大学に特有な事例への具体的な対応が明文化されている。よって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

4. 安全管理を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 「日本大学遺伝子組換え実験実施規程」「日本大学放射線障害予防規程」「微生物安全管理指針」等が定められている。発がん物質を投与する動物実験は、「発がん物質投与実験申請書」を「動物実験計画書」に添付して動物実験委員会の審査を受けることとしている。なお、文理学

部では感染動物実験は行われていない。よって、安全管理を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められていない。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

5. 実験動物の飼養保管の体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>文理学部では、1か所の飼養保管施設が文理学部動物実験委員会の現地調査、審査を経て承認されている。施設には実験動物管理者が配置され、施設利用マニュアルが整備され、適正な飼養保管体制が整備されている。よって、実験動物の飼養保管の体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

<p>日本大学は外部検証を平成 24 年度以降毎年実施し、文理学部は松戸歯学部、薬学部、医学部、工学部、生物資源学部続く 6 学部目となる。多数の学部、複数キャンパスを有する大規模な大学として、一本化した機関内規程として運営内規を定め、全学の動物実験委員会と各学部の動物実験委員会が設置され、これらの委員会関係者の情報共有の意識はきわめて高い。毎年、順次に行われる外部検証においても、動物実験を行う全学部の動物実験委員会の主要なメ</p>

ンバーが列席し、事務局による資料の準備状況もきわめて良好である。部局ごとの対応と全学的な統一性が良好に機能しており、高く評価できる。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に機能している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 平成30年度には全学の動物実験委員会は1回/月の頻度で開催され、文理学部では学部動物実験委員会を2回開催している。動物実験計画書の審査など、運営内規に定めた委員会活動を適正に実施している。また、議事録が保管されている。よって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針に適合し、適正に機能している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 平成30年度には、マウスを用いた3件の動物実験計画が所定の手続きにしたがって適正に実施され、終了した2件については終了・結果報告や動物実験の自己点検票が提出されている。よって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>遺伝子組換え動物を用いる実験が行われており、「日本大学遺伝子組換え実験実施規程」にしたがい文理学部遺伝子組換え実験安全委員会での審議、全学の遺伝子組換え実験安全委員会での確認を経て学長の承認が行われ、適正に実施されている。遺伝子組換え実験安全管理委員会と動物実験委員会は連携し、それぞれの委員会において実験計画の審査が行われる。なお、感染動物実験は行われていない。安全管理上の問題は生じていない。よって、安全管理を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

4. 実験動物の飼養保管状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>文理学部では、マウスおよびラットを飼育する 1 か所の飼養保管施設が承認されており、平成 30 年度はマウスのみが飼養保管された。実験動物管理者は、施設利用マニュアル等にしたがって飼養者を指導、監督し、飼育室の環境条件、動物の健康管理、施設の保守点検等を適正に実施し、飼養保管施設の点検票により飼養保管状況の点検を実施している。記録類の保管も適正に行われている。よって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>

3) 検証の結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 飼養保管施設および実験室は、運営内規に基づき定められた判断基準を満たしていることを文理学部動物実験委員会が視察、確認し、承認後も3年ごとに更新している。飼養保管施設については維持管理状況の確認のため年1回、文理学部動物実験委員会による視察を実施している。施設は、これまでの自己点検・評価により老朽化に対応した大規模改修の必要性が課題とされ、平成29年度に改修されたものである。したがって、きわめて良好な状態が維持されている。よって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 飼育室に設置している紫外線殺菌灯について、人や動物の健康および実験成績への影響を考慮して点灯時期を見直すことを推奨する。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 運営内規にしたがい、実験動物管理者、実験実施者および飼養者に対して、毎年、教育訓練

<p>を実施している。また、実験動物管理者は、外部の講習会等に積極的に参加し、最新の情報の収集や研鑽に努めている。なお、実験動物を使用する学生実習は行われていないため、学生への教育訓練は研究活動にかかわる一部の学生に限られている。よって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>教育訓練として、人獣共通感染症やバイオセーフティに関する内容を追加されたい。</p>

7. 自己点検・評価、情報公開

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>学部ごとに動物実験や実験動物の飼養保管に関する情報の収集と自己点検・評価を行い、全学動物実験委員会で総合的に評価されている。また、全学動物実験委員会は「平成 30 年度日本大学動物実験委員会活動報告書」をまとめ、活動の概要や課題、自己点検・評価報告書、関係資料とともに学長に報告している。さらに、基本指針にしたがい動物実験に関する情報が日本大学のホームページ上に公開されている。よって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

<p>文理学部には、平成 28 年度より生命科学科が新設され、同 29 年に現在の飼養保管施設が設置された。現施設はマウス、ラットの飼養保管に対応し、小規模に動物実験が行われている。</p>

今後、大幅な飼育数の増加や他の動物種の飼養保管が予定される場合は、それに見合った施設・設備、マニュアル等の再整備が必要となる。